

20060

STENT deformation が疑われた一例-実験の検討も含めて-

症例 70 歳代男性右冠動脈 #4 の狭心症に対して stent 留置(EES)を施行。分岐部側枝に対して拡張を行い、stent 留置後 IVUS で確認しようとしたが IVUS が通過しなかったが、無理をせず手技終了とした。造影上 stent deformation が疑われた。そのため我々は模擬分岐部血管(シリコン内腔 3mm)を用いて deformation に関して実験を行った。【使用機器】OCT は LightLab Imaging 社製 M2 【方法】1) 模擬分岐部血管を前述の右冠動脈分岐部に近い 30° で作成し、3.0mm の Promus element を nominal 圧で留置。2.5mm の balloon で側枝を拡張し、OCT で確認。2) 新たな模擬分岐部血管を用い、kissing technique (KBT) を施行し OCT で確認。同様の模擬血管の分岐角度 60° についても検討した。【結果】1) stent は側枝側に偏位し、枝と反対側の strut は圧着不良を認め、stent deformation を確認した。2) KBT 後 OCT で確認したところ stent deformation は認めなかった。分岐角度 60° は 30° に比べて deformation が小さかった。【まとめ】 stent 留置の際、側枝部分のみの拡張では stent deformation を認めるため、kissing balloon technique が有用である可能性が示唆された。側枝の分岐角度が小さいほど本幹の stent deformation が大きかった。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号